

## 新久小学校PTA 成人教育部

人権問題について知り、考える

はじめに

新久小学校は昭和56年に開校し、豊かな茶畑に囲まれてのびのびした環境の小学校です。

本校の令和4年度のグランドデザインは「元気な学校 笑顔であいさつ やる気いっぱい ～ハートで勝負！～」となっており、運動会などの行事や地域性を生かした全校茶摘み体験などの体験学習、朝の学習時間を使ったボランティアによる読み聞かせなど、体だけでなく心も育み、「豊かな心の子」「たくましい体力の子」「たしかな学力の子」を学校教育目標としています。

私たちは成人教育部として、人権教育推進事業の指定校である今年度は、学校教育目標の一つである「豊かな心の子」を育てるために、人権問題について学び、自分たち自身の心を豊かにしたいと考えました。

学習計画

回	実施日	主催	講座名	講師	形式
1	7月4日	本校 PTA	新久小学校の人権教育について	新久小学校校長 酒本 希朱先生	講話
2	9月29日	講座 参加	入間市東町公民館人権啓発講座 ～同和問題の解決を目指して～	埼玉県県民生活部 人権・男女共同参 画課人権啓発講師 新井 茂登氏	講話
3	1月28日	本校 PTA	入間市人権問題講演会 ワタシは一体ナニジンなんだろう	数学者・大道芸人 ピーター・ フランクル 氏	講話

第1回講座 7月4日(月)

参加者：6名

講話 「新久小学校の人権教育について」

講師 新久小学校 校長 酒本 希朱 先生

### 【目的】

- ・子どもたちが通う学校での人権教育について学び、身近な人権問題について考える。

### 【主な学習内容】

- ・学校の教育目標及びグランドデザイン、コロナ下での学校生活や行事について
- ・学校で実施している人権教育の取り組み（専門家による講話、縦割り活動、全校アンケートの結果、社会科の授業での取り扱い、等）
- ・学校、家庭、地域との連携について
- ・ヤングケアラー問題について

### 【感想】

- ・校長先生の講話と言うこともあり、リラックスした中で聞くことができました。学校という中でも、やはり人権はしっかりあり、大人でも子どもでも関係なく人として接することを第一に考えて日々一緒に生活していただいているなど思いました。授業でもしっかり教えていただけてありがたいなあと思いました。
- ・新久小の児童たちが今思っていることをグラフで見せていただき実情を知ることができました。人権教育は小さいころから教えていく教育だと思いました。
- ・毎日通って、一日の多くの時間を過ごす学校で、先生方が、子どもたちの人権を具体的にどんなふうに考え、どのように活動されているのかが知ることができて良かったと思いました。

### 【学んだこと】

- ・新久小学校では、「聞きあい、つなぎあい、学びあう」を大切にし、学校生活の中でも様々な方法で人権問題に取り組み、学ばせる場があること。
- ・毎年とっている学校でのアンケートが、PDCAのサイクルで子どもたちの人権を守るための活動に反映されているということ。
- ・子どもたちが、縦割りの活動で同学年以外の生徒と交流したり、海外からきている児童と一緒に活動したりして、多様性に触れているということ。



第2回講座 9月29日(木)

参加者:4名

講話 「人が人として尊ばれる社会を 同和問題の解決を目指して」

講師 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課 人権啓発講師 新井 茂登 氏

### 【目的】

- ・同和問題について学ぶ。

### 【主な学習内容】

- ・人権とはなにか、人権課題にはどんなものがあるか
- ・同和問題についての実例、認知度、歴史的背景
- ・同和問題の解決に向けた取り組み、我々にできること

### 【感想】

- ・同和問題については何となくしか理解していませんでした。私たち一人一人が正しい知識を得て問題を理解しなければならないなと思いました。そして日常生活の中で人権を守る意識を持って行動することが大切だと思います。
- ・命の尊さについて考えることは人権を大切にする一歩になる、相手の立場に立って考えてみる、なかなか考えさせられる講話でした。時代によっても変わってくる差別に、知らないから！と無知な考え方ではダメなんだと分かり、伝え続けてくれている方に、ありがたいな、知る機会をもらえたな、と嬉しく思った。
- ・私は同和問題という言葉すら聞いたことがなくて、今回の講義で、こんな問題があるんだな、と知ることができてよかった。知ることによって、興味がわき、この講義だけでは学びきれなかった歴史的背景等調べてみたくなった。

### 【学んだこと】

- ・差別行動が、必ずしも悪意からのみ生じるものではなく、正しい知識を知らないことから生じてしまうということ。
- ・身近には感じていなかった同和問題がいまだに存在し、辛い思いをしている方が存在しているということ。
- ・人権問題について、自分たちにもできることがあるということ。



第3回講座 1月28日(土)

参加者:2名

講話 『ワタシは一体ナニジンなんだろう』

講師 数学者・大道芸人 ピーター・フランクル氏

### 【目的】

- ・外国人差別について学ぶ。

### 【主な学習内容】

- ・入間市の外国人の人口の増加について
- ・ピーター氏の生い立ち及び差別を受けた経験、差別の連鎖について
- ・日本に腰を落ち着けたわけ
- ・差別をなくすには

### 【感想】

- ・ジャグリングから始まった講演、一瞬で釘付けになりました。今回は外国人の人権についてでしたが、周りにも外国の方が増えて来て、やっぱり違う所が出てくる。そこを日本のルールで決めつけて、あの人はおかしいと思うのは悲しい考え方なのだと思いました。もっと会話をして相手を理解しようとする姿勢を持たないといけないなと思いました。子どもたちとの接し方もスマホやテレビを見ながら何となくするのではなく、会話をしていろんな体験をしながら、色々な人とも関わりながら、日々を過ごしていけるように、考えてあげたいと思いました。
- ・出だしのジャグリングや軽快な口調で、一気に心をつかまれ、かなり重たい話も冷静にお話してくださったのですと心に入ってきました。仕事柄しばしば外国の方と接する機会があり、言葉の壁などで少なからず苦手意識を感じていたのですが、これからは少なくとも心は開いて接しようと思いました。
- ・子どもたちにも、外国の方に限らず、沢山のひとと接する機会をもたせてあげたい、いろんな価値観や世界に触れて、心を豊かにして欲しいと感じました。

### 【学んだこと】

- ・差別は人々がそれを忘れて自然と消えていくようなものではなく、親から子などへ伝わって残ってしまうものだという事。
- ・国にせよその他のことにせよ、違いがある人との対話が関係を豊かにし、自分の心も豊かにすることにつながる。そのためには聞き上手、質問上手になること。
- ・自分の考え、知識以外のものを認めない、排斥するなど、無意味な比較をして優劣をつけてしまうことが差別につながってしまう。心を開いて人と接することが大事であること。